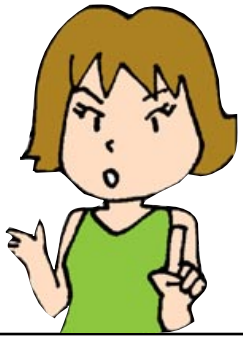
路上ではみんなパートナー



視覚障害者、車イス利用者が
路上で何に困っているか、想像してみましょう。

まとめクイズ

Yes、Noのどちらかを選んでください

Q1. 困っている視覚障害者の手助けをするときは、その人の腕や身体に触れる前に、まず声をかける。 Yes No

Q2. 近くに視覚障害者がいないときは、歩道などにある点字ブロックに、自転車を駐輪してもよい。 Yes No

Q3. 駐車場の身障者用スペースに、健常者が車を駐車できないよう、パイロンを置いておく。 Yes No

Q4. 車イスの人と自転車ですれ違うときは、なるべく急いで通り過ぎる。 Yes No

→解答は次ページに！

まとめクイズの解答と解説

Q1. Yes

下のコラム1を参照してください

Q2. No

下のコラム1を参照してください

Q3. No

身障者用の駐車スペースに平気で車を停める健常者がいます。それを防ぐためパイロンなどを置いておきます。そこまではよさそうですが、いざ車で来た身障者が利用しようとすると、パイロンがじゃまで使えなくなります。
身障者用の駐車スペースは、常にあけておくようにしましょう。

スペース確保のためにパイロンが置かれている駐車場。身障者の方には不便です

Q4. No

思いやりの気持ちとは、相手の身になって、考え、相手を驚かさないように、相手が喜ぶように行動することです。歩道など狭い道で車イスの人とすれ違うときは、前で止まって待ちましょう。追い越すときは、自転車を降り、車イスの動きを見ながら、そばをゆっくり通過しましょう。

車イス利用者の横を自転車で通るときは、止まって待ちましょう

コラム 1

知っておきたい「障害者の困ること」❶

●視覚障害者の歩行

全盲の視覚障害者は白い杖や、音や匂いといった周囲の状況を頼りに歩いたり、道路を横断したりしています。急に腕をつかまれたり、押されたりすると、びっくりしてしまいます。手を差し伸べるときは、必ず一声かけてからにしましょう。

●点字ブロックを邪魔してない？

点字ブロックは視覚障害者にとって大切なものですが、自転車が置かれていたり、その上で立ち話をしていたりすると、本来の目的どおりに使用できません。点字ブロックの上と左右50cmは開けておきましょう。

●知っていますか？　障害者が困っていること

点字ブロックはふさがない。
歩道は歩行者だけでなく、車イスだって通ります。

視覚障害者の場合

視覚障害者は、杖を頼りに歩行しています。通り慣れた道ならかなりの速度で、杖を強くたたくようにしながら歩いています。そこへ違法に歩道に乗り上げて駐車した車などがあると、杖で車を傷つけたり、杖が折れるといったトラブルが起こります。また、視覚障害者の5人に1人が、開いているハッチバックや車からはみ出した積載物などにぶつかってケガをする経験をしたことがある、と答えています。

また、点字ブロックの上を歩こうとして駐輪中の自転車を倒してしまった場合、自分1人では起こせず、「すみません」といいながら周りの人に助けてもらうことになります。「自分は悪くないのに」と不快に思っている視覚障害者も実は多いのです。点字ブロックの上をずっと歩いていると足が疲れるので、点字ブロックを杖で確かめながら、その横を歩く人もいます。点字ブロックの上だけでなく、左右50cmはふさがないように、というのはそのためです。

車イス利用者の場合

車イスは幅があるため、車道に乗り上げて駐車している車や、迷惑駐車の自転車などがあると、歩道を通行できません。車道に出るにも、段差がある場合は、段差のないスロープまでいったん戻らなければなりません。しかも車道を車イスで移動するのは大変危険です。歩道は歩行者だけでなく、車イスで通る場合もあるということを理解しておきましょう。

上／開いたままのハッチバックは危険
下／点字ブロックの上に自転車は置かないこと

コラム 2

知っておきたい「障害者の困ること」❷

●車イス利用者

車イスで歩道を通行中、歩道に乗り上げて駐車している車があると、また段差のないところまで戻って、車道に出なければならず、大変危険です。
また、段差で困っている車イスを押すときには、必ず一声かけてからにしましょう。

●身障者用駐車スペース

身障者用駐車スペースは入り口に近い、といった便利な場所にあるだけでなく、車イス利用者でも使用できるよう、十分な広さがとってあります。通常の駐車スペースでは、隣の駐車車両との間に十分なスペースがなく、車イスが出せないためです。

調べてみよう 考えてみよう

新聞や本などの資料、インターネットなどを使って、調べて考えてみましょう

- **あなたの家の近くには、身障者用の駐車スペースのある施設はありますか？　どこに、どのように使われていますか？**

- **通学路のなかで、段差があって車イスだと大変だと思うところはどこですか？**

- **点字ブロックの上に自転車などが置かれている場所がないか、振り返ってみましょう。**

- **あなたの周りに、視覚障害者や、車イスを利用する方がいたら、交通で何に困っているか、たずねてみましょう。**

MESSAGE

「思いやり」ではなく、まず「知ること」から始めよう

徳田克己　筑波大学社会医学系教授、臨床心理士

障害者について「思いやり、福祉の心を持って接しよう」とよくいわれます。「思いやり」とは何でしょうか?

私の大学では、地域のボランティアの人たちが、視覚障害の学生に図書館で朗読サービスをしてくださっています。私の研究室にも視覚障害の学生がいて、ボランティアの方が研究室まで学生を迎えに来てくださいます。「どうして迎えに来られるのですか」とたずねると、「思いやりだから」との答え。別のボランティアの方は「自分で来てください」といいます。その方は「世の中には危険なところが多いので歩く練習をしておかないといけない。大学の中はそれほど危なくないから、大学の中では歩く練習をしておくべきです。だから時間がかかっても、研究室から図書館まで歩いてくるように、というのです。それが思いやりだと思うのです」とおっしゃる。

同じ「思いやり」の気持ちからといっても、まったく正反対の行動に出ることもあるのです。自分なりの「思いやり」を押し付けるのではなく、障害者が、実際の交通場面で何に困っていて、どんな手助けを必要としているのか、ということをまずは具体的に知ってほしいと思います。